

社會主義の世の中では

誰が肥汲みをするか

此の問題が又私の舊友の二つである、私は幾たび此の質問を受け、幾たびそれに答へたか數へきれない。然し此上まだ幾たびでも、お尋ねを受ける以上お答へをする積りである。

肥汲は厭な仕事に相違ない。そこで若しあんな厭な仕事をさせられる様なら俺は社會主義に反対だ云ふのが、それらの質問者の態度である。誠に尤も事である。

然し一方から考へると、あの（東京などでは）オライ、オライ云つて来る肥汲の勞働者が、現代の紳士、中紳士、小紳士、準紳士諸君をして社會主義を否定せしめ、社會主義に反対せしめる、有能な要素であるかと思へば、彼れ肥汲子も亦た實に當世に於ける重要な人物である。換言すれば、廿世紀の文明と云ひ文化と云ふのが、只だ彼の肥汲子をして永久に其の位地に安んぜしめ、他の大紳士、中紳士、小紳士、準紳士をして此の卑賤醜陋なる厭ふべき仕事から免れしめる所に在るにすれば、彼れ肥汲子たる者、其の見すほらしき風采に係はらず、實に此の燦然たる文明の維持者であり、此の爛漫たる文化の擁護者であるわけである。私は折々肥汲子の姿を見て此の大問題を思ひ浮べる時、彼が現代の思想界に於いて斯くの如き重要な位地に立つてゐる事など全く知らずに、役々として其の日常の業務に服してゐる其の無邪氣な顔色に對して、寧ろ一種の敬意を生ぜざるを得ない。

然らば此の重要な社會的任務を遂行しつゝ、ある現代の肥汲子は、將來の新社